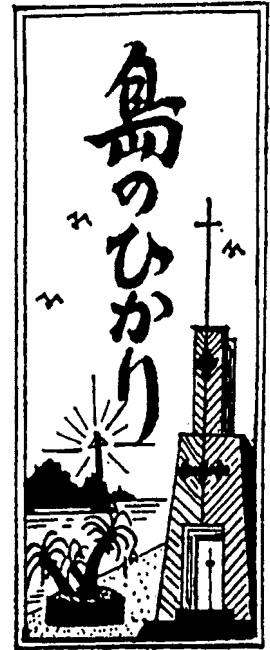




霊名のお祝い おめでとう

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959⑦0072
印刷・(株)才津印刷所

Let's get hot

主任司祭 工藤 秀晃

大リーガー、ロサンゼルス・エンゼルス所属の大谷翔平選手。皆さんご存知のようにリアル二刀流で、投打ともに秀でた才能を持ち、特に今年は打における目覚ましい活躍が、連日のように日本中を沸かせてくれています。今回のオールスター戦にも選出されており、その試合も含め様々な記録を打ち立てるのではないかと、さらなる期待が膨らみます。

さて、大リーグ続きでいうと、今から遡ること五年前の二〇一六年八月七日。当時、フロリダ・マーリンズに所属していたイチロー選手が、メジャー通算三〇〇〇本安打を達成しました。この偉業はメジャー史上三十人目、つまり一〇〇年を越えるアメリカのプロ野球の歴史の中で三十人しかなしえていないことを意味しました。

ところが、ちょうど同じころ、「イチローが嫌いだ。あの人を見てみると…」と語る四人のアスリートが出演するCMが放映されるようになりました。そう

語るのは、国際大会でも活躍する、競泳の「の瀬マイ選手、車イステニスの三木拓也選手、走り幅跳びの芦田創選手、棒高跳びの山本聖途選手の四人です。彼らはなぜ「イチロー選手を嫌いだ」と語るのでしょうか？

その理由は、「イチローが嫌いだ。あの人を見てみると、限界という言葉が言い訳みたいに聞こえるから」一ノ瀬マイ選手。「イチローが嫌いだ。あの人を見てみると、自分にウソがつけなくなるから」三木拓也選手。「イチローが嫌いだ。あの人を見てみると、努力すら楽しまなきゃいけない気がするから」芦田創選手。「イチローが嫌いだ。あの人を見てみると、どんな逆風もチャンスに見えてくるから」山本聖途選手。

素晴らしい結果を残し続けているにも関わらず、まだ上を目指し続けるイチロー選手を尊敬しているからこそ、あえて「嫌いだ」と語る四人の選手たち。そして、CMはこう続きます。

「でも、同じ人間のはずだ」と。まあ、賛否両論はあると思いますが。でも、「イチロー選手にできるのだから、自分にできない

理由はない」という四人のアスリートに強い意志を感じる言葉に聞こえます。そして、それはそのまま、私たちにも当てはめられることのできる言葉でもあると。ある小学校の校長先生が次のように言っています。「努力すれば、必ず幸せになる」と、いうのはウソ。努力して幸せになることもあれば、幸せにならないこともある。結果はコントロールできない。コントロールできるのは、努力する行動だけ。そして、もっと大切なことは、努力できることが幸せであることに気づくこと。」と。

結果がすべて、結果がものという世界にあつて、結果そのものよりも、その過程を大切に守り続け、純粹に評価してくださる方(神様)がおられます。だからこそ、一心不乱に一生懸命に取り組むことが出来ますしそのとき私たちのいのちは輝きを放ち、そのいのちの輝きを見て、人はこころ動かされ素直に感動するのでしょう。

老若男女の皆さん、夏の暑さに負けることなく、時には熱くなってみましょうか…。

暑中 お見舞い 申し上げます

祝!! 工藤神父様

浦頭教会の保護者である聖ペトロ、同様に工藤神父様の霊名でもあり、六月二十七日のミサ内で霊名のお祝いを行いました。信徒からの霊的花束、花束、挨拶を小学生より行って頂きました。挨拶を行った五年生の入口瑛翔君は、私達の為にいつも頑張っている神父様への感謝と、コロナが落ち着いた後の侍者旅行を楽しみにしていますと述べました。



挨拶する入口瑛翔君

また七月十一日のミサでは神父様の誕生日のお祝いを行いました。女性会からのプレゼント、青年会からの花束、赤尾一美議長よりお祝いの言葉が述べられました。早く飲み交わしたいですね!!



40代最後の言葉



赤尾一美議長よりお祝いの言葉

「父と、母と、子供の日」

コロナ禍の中で緊急事態宣言が発動され、ご復活祭を含む長い期間教会での御ミサも中止となり、いったい何時まで教会に行けない日々が続くのか…。

五島市で発生した新型コロナウイルスも終息し、五月に入る頃には御ミサも再開、徐々に日常を取り戻す中、子供の日、母の日、父の日のミサがそれぞれの日に執り行われました。

子供の日、ミサでは、ミサ後に笑顔で祝福を受けたおみやげを持ち、はしゃいで帰る子供達を優しく見守るお父さんやお母さんの姿が見られました。また母の日のミサでは、カーネーションの花を受け取りながらはにかむお母さんの姿、父の日のミサでは、栄養ドリンクをにやにやしながら受け取る(私も含め)お父さんの姿が見られました。

コロナの影響で未だに完全ではありませんが、ミサを含めた「普段の日常」が一日でも早く取り戻せるよう祈りたいと思います。

聖母への祈り

「アヴェマリア」と澄んだ声でマリアさまにロザリオの祈りを捧げた子どもたち。週に五日間小学生を中心に聖母月を過ごしました。総数十名の小学生ですがほとんどの子どもが毎日出席し堂内に祈りの声が響きました。コロナ禍の厳しい状況でミサができない小教区が多かったと思います。そのような中で集まりを行うことに賛否両論あることはありますが信心を行えたことに感謝してさらに世界の平和と感染終息を祈ることに努めたいという思いです。

聖母月はカトリック信者の聖母信心への原点だと思えます。子どもの頃、カードを首にぶらさげて旧浦頭教会に行き、ロザリオが終わると列に並び、先生の印鑑を押してもらうのが楽しみでした。学校帰りで疲れていても信者の友達と遊ぶことが楽しみでした。今の子どもたちも教会のまわりをよく走って仲良

く楽しく遊んでいます。遊ぶと眠くなりもしますが、コクリコクリとしながらも子どもなりに睡眠と闘っているのはかわいいものです。マリアさまもきっとほほえんでくださっていると思います。

毎日意向を述べて唱えた清らかな祈りが届き、世界平和、コロナ終息、家庭と地域の平和が実現しますように。

信者の皆さんも小教区代表として毎日十数名皆勤しました。ロザリオはすばらしい祈りの道具です。以前の三つの玄義に加えてヨハネ・パウロ二世が光の神秘を加えてくださり、その目的が一層明らかになりました。マリアさまとおしてイエスさまの生涯を黙想することがさらに深められたということです。アヴェマリアの祈りやロザリオから遠ざかっている人もぜひ祈りの習慣をとり戻し、天国行きのバラの花冠・ロザリオを唱えてほしいと願います。

Sr 木口直恵

「マリア様の心それは青空 私たちを包む広い青空」

平和のぼら保育園では、去る五月十九日(水)マリア様を讃え主任神父様の司式のもと今年も園児と職員のみ聖母祭を行いました。園児たちは一人一人の役割を精一杯果たし、マリア様に祈り神様に小さな手を合わせ、おとりつぎを願う姿は「幼な子を私のもとに来させなさい」というイエス様のみことばを思いました。コロナウィルスの一日も早い終息と世界と家族の平和をこれからも祈りたいと思います。

園長 Sr 川口幸子



マリア様を讃えて

- ★ドレスを着るのは嬉しかったけど、恥ずかしかったです。 **本山あんな**
- ★花まきをするのが、楽しかった。ドレスを着たのが、ワクワクして嬉しかったです。 **出口ゆい**
- ★十字架を持ちたかったから持ってた嬉しかったです。本当の時は、先頭を歩くのがドキドキしました。 **松本よしき**
- ★お花を入れる時(献花)、ドキドキした。ロウソクをしっかりと持つことを頑張った。 **釜崎いちか**
- ★ロウソクを持った時、暖かかった。歩く時(行列)に、お祈りと歌が楽しかったです。 **浦けんしん**
- ★ロウソクを持って、マリア様をお祝いしたのが、楽しかったです。 **川辺えいと**
- ★ドレスがお姫様みたいで、嬉しかったです。 **濱口ここ**

秘跡

- ・テクラ 赤尾サヨ 98歳
- ・五月十六日 死去 浦頭
- ・パウロ 木口秀生 86歳
- ・七月七日 死去 浦頭
- ・マグダレナ 竹口マツ子 93歳
- ・七月十四日 死去 浦頭
- ・ヨゼフ 中尾 敏 89歳
- ・七月十六日 死去 浦頭

“ありがとう”

次の方々より御芳志を頂きました。感謝いたします。

- 入口 良秋様 市内木場町
- 出口 様 東京練馬区
- 鍋内 智博様 愛知県岡崎市
- 出口キミエ様 大阪府松原市
- 赤尾道夫神父様
- 濱口 長一様 長 崎 市
- Sr 赤尾 綾様 純心聖母会
- 松田トミ子様 佐世 保 市

おたより

十主の平和

編集部の皆様お疲れ様です。「島のひかり」を手にした方々

が感謝の心で誇りを持ち、絆の内に歩んでいきますように。信仰の花を沢山、咲かせてください。感謝のうちに。

東京都練馬区 出口様

コロナ禍で教会活動も制約されるなか、宣教活動に活躍されている編集部の皆様に敬意を表します。いつも「島のひかり」

ありがとうございます。

濱口長一様

十主の平和

前略、いつもいつもお心にかけていただき、島のひかりを懐かしく拝読させていただいております。様々な行事を行われ、大変な事と思います。

今はコロナのため大変な事と思います。一日も早い終息を皆様でお祈りなさっておられる事でしょう。皆様方元気で過ごしていただけることを願っております。本当にありがとうございます。

追伸、私の事ですがこの四月から長崎の方に帰る事になり、

以前おりました原爆第二修道院におります。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。皆様方神父様をはじめ御身体を大切になさって下さいませ。

皆様方の上に神様のお恵みをお祈り致します。

長崎市 原爆第二修道院

Sr 赤尾スミエ

十主はいつも共におられる

アレルヤ!!

復活節も第五週に入り、初夏のさわやかさを感じるようになりました。広報委員の皆様、いつも楽しい「島のひかり」を届けて下さり、ありがとうございます。二七号も楽しく読ませていただきました。「島のひかり」に出てくるお名前は、だいぶ分からなくなつてまいりましたが、故郷の様子を想像しながら、記事を読ませていただいていると、とても懐かしくほっこりした気持ちになります。

お年寄りの方々が元気に頑張っている姿を拝見して、ホッと安心したり、若い方々が、地

域や、時には世界で活躍されている姿に驚いたり、励まされたりしています。今回は、鍋内礼美さんの記事を読んで、「あの小さかった礼美ちゃんが!!」と、立派になられた姿に驚いたり喜んだりしました。(その分私も年を取った...ということですね)「島のひかり」を継続していかれるのはとても大変なことだと思いますが、できるだけ長く続いて下さることを願っています。

またこの度、私は転勤になり長崎に戻って来たのですが、私はパソコンで「島のひかり」を読むことができませんので、今後は郵送して下さらなくて大丈夫です。少しでも郵送料が軽減されればと思っています。

コロナのおかげで、せっかく近くに帰って来ても、なかなか五島へ足を運ぶことができませんが、皆様がお元気で日々を幸せに過ごされますようお願いしています。これからも「島のひかり」を楽しみしています。

Sr 赤尾 綾

昭和四十七年頃、実父鍋内千里、実姉麗子も編集に係わらせていただいておりますことを懐かしく思い出しました。

故郷を懐かしみ、島のひかりとして遠く離れた故郷との接点と思い、発刊を楽しみにしている方も大勢いらっしゃると思います。私事を犠牲にしての編集作業、なかなか大変なご苦労があるかと思えます。どうか健康に御留意されて、関係者の皆様の益々の御清祥を祈念しております。

岡崎市 鍋内智博

《転入》

樽角ヨシエ

四月 福江教会より

奉仕作業に思う事

シメオン・アンナ友の会

濱口 信行

奉仕を辞書で調べると!! 社会や人の為に尽くす!! と出ています。

五月九日に、浦頭教会、宮原教会、中村長八神父様生家のまきの木周辺の除草・植木の剪定・消毒作業等を行いました。



きれいに剪定

当日は五島市でもコロナウイルスの感染者が続出する中で作業で、とても懸念され又作業量を制限された中での奉仕作業となりましたが、多くの方々の御協力のお陰で無事に終える事が出来ました。

タイトルでも書きましたが、

私の奉仕作業に思う事を少し綴らせて頂きます。今、浦頭教会評議会の各部会では、地区委員会、壮年会、女性会、シメオン・アンナ友の会の各部会では年に五・六回の奉仕作業が行われています。各部会では現在少子高齢化・信徒数の減少等々さまざまな要因で奉仕作業自体に支

障を来しているのが現状です。又、作業協力の御案内を致す中でも、相手の方がどのような状況かもわからずに協力をお願いする事にかなりの気苦労もあります。

私の個人的な考えですが現在の奉仕作業形態が改変の時期にあるように思います。お祈りの場である教会堂周りの景観を守る為にも皆様方の御協力が必要不可欠だと思います。今、大司教区では小教区再編に向けた協議がなされています。

七月四日の信徒全員での作業には、七名ものシスターの協力があり「我らが教会」精神全開!!



宮原教会にて

感謝 島のひかり 読者の皆様へ

本誌は、浦頭小教区誕生から約二年半後、創刊されました。

当時の主任司祭は野下千年神父様。「島のひかり」は神父様の、小教区から旅立った信徒に対するメールと小教区の今をしっかりと理解してもらい、世の光になり続けて欲しい。その願いをこめて発刊されました。

半世紀に渡る本誌の歴史は、四季の彩りの様にいろいろな形に変化していきました。輝く様な喜び満たされる日々、悲嘆にくれる日々、小教区に流れる様をしっかりと映しながら、読者にそれを伝える事、それを懸命にやって来た、そう言えると思います。ただ、その島のひかりもこの度、経済的な理由により、購読料の値上げという事を信徒の皆様にご了解していただきました。本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

ヨハネ五島の 聖骨修復を終えて

鍋内 誠次

堂崎教会の受付の方から、聖骨が二片程落ちていたけれど、どうにかありませんかという話があり、一片は数年前から落ちていたとの事で、市役所の方に相談したところ、本業は絵の修復の専門の方ですが、今度五島に来るので見てもらってはという話をいただき、四月十七日、神父様、議長立会のもと、確認して頂きました。少し難しいですが修復可能ですと言われましたので、早速お願いすることにしました。四月二十六日から二十八日にかけて堂内で作業を行っていただき、見事なまでの修復をしていただきました。相談にのっていただいた市役所の松崎さん、修復をお願いした竹ノ下さん、本当にありがとうございます。

異国からふる里へ 帰って来た聖骨

それは堂崎天主堂の祭壇前、中央にあり、聖ヨハネ聖骨安置所と記されている。

聖骨を納めた置き物に関して書かれた説明文は、ヨハネ五島の遺骨がたどってきた、遠い道のりを物語っている。

ヨハネ五島の聖骨
イルマンヨハネ五島は、一五七八年、五島列島に生まれた。



その翌年、キリシタン大名ドロン・ルイス宇久純堯が没し、キリシタン迫害が始まると、ヨハネ五島も家族とともに長崎に移り、その後天草志岐のセミナリヨに学ぶ。志岐でセミナリヨ院長モレホン神父と出会い、神父の同宿として大阪に向かう。一五九六年、豊臣秀吉によりキリ



ヨハネ五島の聖骨を納めた置き物

シタン捕縛令が出された際、ヨハネ五島は神父の身代わりになり名乗り出て、翌一五九七年二月五日、長崎西坂の二十六聖人の一人として殉教の命をささげた。

宣教を続けたモレホン神父は国外追放によりマカオに逃れた時、その地に送られていた愛弟子の聖骨に出会い、その一部をマニラのイエズス会に送った。

一八六五年大浦での歴史的発見の後、プチジャン司教がローマからの帰途、マニラに立ち寄り、その聖骨から分骨して、大浦天主堂に持ち帰った。

一九七七年、堂崎天主堂資料館開設の折、大浦天主堂よりヨハネ五島の出身地でその尊い十

九年の生涯を語り継ぐため、堂崎資料館にもたらされたものである。

ヨハネ五島が殉教される場に父はいた。彼は「お父さん。救霊を大切に、おろそかになさいませぬように。」と語る。父はそれに応えて、「お前が喜んで死ぬのを見届けよう。私もお母さんも必要とあらば、御主に一命をささげるつもりだよ。」と語りかけます。

ヨハネ五島は、祝されたロザリを父に、持っていた縁飾りのついた布を母に贈る。そして、京都に行くという知人に、京都にいる宣教師、特に師であるモレホン神父に感謝の意の伝言を頼み、神の元に召される喜びと共に西坂の丘に向かって行った。



浦頭小教区の 歴史及びデータ から考える今。

IV

題名では、データから考える
今とされていますが、主なデー
タは前回号で終えた為、今回か
らは歴史のみの記載とさせてい
ただきます。



慈恵院創立と同じ年、明治十
三年、マルマン師によって堂崎
に仮聖堂が建立され、そこが弾
圧解放後の五島における宣教活
動の拠点になっていきます。の
ちに後任のペルー師によって建
て替え工事が行われ、明治四十
一年、現在の赤煉瓦ゴシック様
式の天主堂が完成し、日本二十
六聖人に献げられました。この
教会堂は本格的な教会建築とし
ては五島で最初のものであり、
島内におけるキリスト教復活後
の信仰の中心になっていきまし

た。壮麗な姿を形造る赤煉瓦は
遠くイタリアから輸入されたも
ので、当時の建築技術を物語る
証しとして昭和四十九年に県の
有形文化財に指定されています。
教会の前庭には長崎西坂で処
刑された二十六人の殉教者の一
人ヨハネ五島の像が建ち、又、
堂内にも遺骨が安置されていま
す。

設計施工には、ペルー師、福
江大工町の野原与吉、鉄川与助
が携わり、建造にあたらせたの
は長崎浦上天主堂建立を企画し
たフレノー神父ではないかと言
われています。

この地、堂崎は慈恵院の事業
母体となった「女部屋」お告げ
の MARIA 会奥浦修道院「発祥の
地」でもあり、五島キリシタン信
徒に対して、小ヴァチカンの重
責を果たしてきました。昔は
道路が整備されていなかった事
もあって、日曜ミサには美しい松
林に色どられ、砂浜には、櫓こ
ぎのてんま船が次々に集まって
来しました。



現在、堂崎天主堂はキリシタ
ン資料館になっており、代表的
な内部資料として県の有形文化
財である、ドロ聖教木版画、善
人の最期、悪人の最期、最後の
審判の三部作が展示されていま
す。

この三部作にはいわれがあり
それは宮原教会にも関わって
います。

この木版画は戸岐湾とつなが
る小川の横の小さい丘にひっそ
りとたたずむ宮原教会に一時期

置かれていた事もあったとい
います。この地を巡回していた伝
道婦中島ヤナさんは木版画の絵
を見せながら、神様のことを教
え諭していました。

宮原教会は、一八八五年、明
治十八年、ペルー師によって建
てられ、当時、教会では十数人
が洗礼を授かったそうです。

月日がたち、傷みがひどく
なった事もあり、当時の総代宮
崎氏を中心に信者達が資金積立
をし、物価上昇をかんがみて、
大規模改修工事の早期着工を決
意します。



現在の宮原教会

ふる里だより

移動スーパーパーオパオ号 巡回スタート

四月九日より各方面を週一のペースで運行を務める赤石さん。現在のコース堂崎・浦頭・平蔵・南河原・檜ノ浦・崎山・大浜・岐宿・山内・三井楽町から試み、現地に一時滞り。商品や駐車場の要望等、可能な限り応え地域活性を目指した活動が出来たらと願っています。交通手段の無い方、多忙な方の短時間や様々な人生の転機等、先を見据えていて有難い。付近に近づく、「愛を積めたママが笑うくエレナ」と軽やかな音楽が流れてくる。

地元へ寄り添いながら町と人を助けて頂きたいと願っています。



地区に小店があった頃

竹山 要司

昔、各地区に小店が数軒あった。私の思い出としては、昭和三十一年からしか思い出せない。一軒の店に雑貨、学用品、食品などが所せましと並べられていた。地区にはまだ車を持っていない者はいなくて、福江に買い物に行く手段は、バスか徒歩。

小学校、中学校を終え、当時は集団就職の時代で、高校に行く人はわずか。残りの者は県外へと旅立って行った。

私もその中の一人で、愛知県から昭和四十四年に帰郷して現在に至っている。帰ってきた当時は、小店に替わって移動スーパーパーが二台で、(名前を出してもいいかな)、六方の榊木商店と戸岐向の中村商店で大変助かったものです。今はクルマ社会となり、ほしい物があればすぐ間に合う。でもお年寄りには乗れない。そんな時「パオパオ号」ありがとう。

“行けよ。子供達”

行くぞ元気印達”

二〇二一年度子供教室スタート

本年度、最初の事業は「自分だけのキーホルダーを作ろう」六月十二日、奥浦小・中の子供達二十名が参加し、講師の古川さんの下、思い思いの作品をつくりあげました。細かい作業の中、子供達、一点集中。

講師もびっくりの素晴らしい作品の出来上がりです。

「色使い、飾り方、一人一人の個性、感性がいっぱい出てるね!!」



集中!! 集中!!

編集後記

日に日に日差しも強く、屋根も熱く、草木は、発育よし、地域の活動も何方を見かけても忙しそう。昨年九号、十号の大型台風の影響で災害が大き過ぎて教会各地も色々大変と感じている。中でも、浦頭公民館も昭和三十三年に設立後六十年とよくぞ耐えてくれた。

この度大改修を試みた歴代の役員様方、幾度も会を作り住民の負担を軽く、又、是からを担う方々の事も考慮し無事に大改修工事も終了。これぞ人から人への「賜物」自分もボチボチ頑張ります。皆様お疲れ様です。

小田 洋市

